

Vol.74

Vol.74 (2018年春号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Columun / 組織	3
Best Practice and Competence / PM 事例・知識	10
PM Calendar / PM カレンダー	17
Fact Database / データベース	18
Editor's Note / 編集後記	22



Column / 組織

- ◆PMI日本支部 創立20周年のご挨拶 3
PMI日本支部 会長 奥澤 薫
- ◆PMI日本支部2017-2019中期計画の進捗確認と支部活動の更なる充実に向けて 4
PMI日本支部 副会長 端山 毅
- ◆新任理事ごあいさつ 7
PMI日本支部 教育国際化委員会 伊藤 衡
PMI日本支部 組織拡大委員会 水井 悦子
PMI日本支部 ミッション委員会 池田 修一
PMI日本支部 組織拡大委員会 渡辺 哲也

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆【部会紹介シリーズ】 その9 『統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会』 10
IPPM研究会 代表 泉澤 聖一
- ◆【部会紹介シリーズ】 その10 『セミナー・プログラム』 14
セミナー・プログラム 副代表 大島 康宏

- PM Calendar / PM カレンダー 17
• PMI日本支部関連セミナー等

- Fact Database / データベース 18

- Editor's Note / 編集後記 22

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Column / 組織

■ PMI日本支部 創立20周年のご挨拶



PMI日本支部会員、およびスポンサーの皆様におかれましては、ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

PMI日本支部は、2018年1月16日に創立20周年の記念日を迎えることができました。これはひとえに皆様方のご支援の賜と深く感謝し厚くお礼申し上げます。

支部におきましては1998年のPMI (Project Management Institute, Inc.) の支部として発足以来、一貫して「プロジェクトマネジメント」を日本に広め、PMI®標準を主軸としたサービスの提供をしてまいりました。現在では、「PMBOK®ガイド 第6版」は変化の激しいビジネス環境への対応を補完する「アジャイル実務ガイド」と共に提供され、「プログラムマネジメント」、「ポートフォリオマネジメント」だけでなく、「チェンジマネジメント」、「ビジネスアナリシス」、「ベネフィット実現マネジメント (Benefits Realization Management)」などの新たな標準や方向性を打ち出してっております。

発足時は任意団体PMI東京支部として少数のボランティアで活動しておりましたが、2005年に法人化、2009年には一般社団法人PMI日本支部へと発展を遂げてまいりまし

た。近年におきましては会員の増加、アクティブなボランティアメンバーの増加に加え、他国との協力関係を結び、さらなる飛躍に向けて活発に活動しており、現在、法人スポンサー105社、PMI日本支部会員は4,000名の大台超えるところまで拡大しております。

20周年を記念し、2018年5月20日(日)に記念セミナーを開催する予定です。詳細は別途ご案内させていただきますので、ご参加をお待ちしています。また20周年という節目に合わせて、PMI日本フォーラム、PMI Japan Festaは「新しい潮流へのチャレンジ～境界を超えて～」という統一テーマで、激変する時代の新たな潮流に向かい、さまざまな境界を超えて共に成長しようという気持ちを込めております。それ以外にも、記念誌、記念出版などの20周年企画施策を進めてまいります。(PMI日本支部 設立20周年記念事業のご紹介)

ぜひ、皆さま、ボランティアとして、また、参加者として私達と共に20周年を祝っていただければと思います。

なお、記念ロゴには、日本支部のさらなる飛躍進めるため、羽ばたくイメージを選びました。今年はこちらの記念ロゴを活用していきます。

20周年を大きな節目とし、PMI日本支部は、日本のさらなる発展に寄与していけるよう、最大限努力していく所存です。今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年3月吉日

PMI日本支部 会長 奥澤 薫

■ PMI日本支部2017-2019中期計画の進捗確認と 支部活動の更なる充実に向けて

PMI日本支部 副会長 端山毅

2017年度は、PMI日本支部第5期中期計画の最初の年でした。早々に行動に移された施策もありましたが、上期は施策の具体化検討、行動計画の策定が中心となりました。中期計画の施策候補を挙げたのは2016年上期のことであり、その後の環境変化を踏まえて、施策や目標に対する見直しの必要性を5月に確認しましたが、見直しは不要との結論に至りました。9月には戦略委員会等に中期計画に対する進捗報告を求め、進捗状況を踏まえた計画見直しや支部としての追加アクションの必要性を検討しました。その結果をまとめ、2018年度に向けた課題を年末の理事会に報告しました。

2017年における中期計画に関する活動は概ね順調に推移しましたが、いくつかの懸念事項もありました。まず、理事やアクティブメンバーの熱意に依存しており、目標達成まで持続可能か危ぶまれる施策もありました。2017年末が理事改選期にあたり、2018年の新体制で理事の担当割り当てを工夫するとともに、ボランティアメンバーの機動的な募集も進めて参ります。また、長年の懸案に対しては、単純な解決策は存在しないので、粘り強く検討を重ね、多様な意見や見方を取り入れていく必要があります。ポートフォリオマネジメントやプログラムマネジメントなど、諸外国ほどに日本で関心が高まらないテーマの普及展開については、ミッション委員会内で議論を重ね状況分析を行った上で、WGを設置して新たなメンバーを迎えて検討を開始しました。REPとの関係強化についても議論を深めています。会員数は順調に増大

し2018年初には4千人の大台を超えましたが、PMBOK®改定に伴う一時的な増加も含まれており、支部としての会員増強策と実績との関係は、慎重に見極めていく必要があります。

このような状況分析を踏まえ、新たな課題も見えてきています。戦略委員会の活動は充実してきておりますが、支部全体としての整合性を高める調整機能の充実が必要になってきました。また、中央、地方双方で、公的機関との関係が構築されつつあり、PMI本部やワシントンDC支部を通じた米国政府機関とのチャンネルを利用することも考慮し、公的機関を通じた日本でのPPPMの普及拡大が視野に入ってきました。本部との連携強化を睨み国際連携委員会、教育国際化委員会等の活動を調整して、より戦略的な取り組みに踏み込むことも検討を要します。PMI日本支部は世界でも有数の規模に成長し、PMI本部との関係も従来以上に深まっています。PMBOK®/PMP®以外の標準類/資格の展開など、PMI本部の影響力を利用しつつ、PMI日本支部の活動充実を狙うことも可能になっています。

2018年は設立20周年を迎え、PMI日本支部は新たな段階に到達したとも言えます。会員の方々の満足度を高めるために、中期計画の目標達成とともに、さらなる飛翔に向け、日本の社会状況や問題意識に応える活動の充実が求められていると認識しています。

■PMI日本支部2017-2019中期計画の進捗確認と支部活動の更なる充実に向けて

No	施策名	目的	推進主体
[I]	PPPMの普及推進		
1	PPPM普及推進戦略の確立	PPPM関する内外の動向を調査、把握し、日本におけるニーズを分析して、PMI日本支部の戦略的な取り組みを調整、提起する。	理事会
2	PMI標準翻訳	質の高いPMI標準書を邦訳する	標準推進委
3	PMI標準の普及	翻訳されたPMI標準書を普及する	標準推進委
4	海外でのProgram Management, Portfolio Managementの活用事例の紹介	普及の進んでいないProgram Management, Portfolio Managementでの定着	国際連携委
5	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用分野の開拓	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用について、ノウハウや知見をまとめ、普及の一助とする。	ポートフォリオ/プログラム研究会
[II]	グローバル化対応		
6	PMIのリソースとグローバルなネットワークを活用したPM教育の普及・グローバル化の推進	教育機関の取り組み課題である能動的人材育成（アクティブ・ラーニングの強化）、世界で活躍できるグローバル人材の育成に貢献する。	教育国際化委
7	PMIJのプレゼンス向上	PMIJでの活動(特にIRC)をR9、R15等のカンファレンスで紹介し、グローバルプロジェクトを行う上での基礎知識として現地の方に広める。また、その機会を通しコミュニケーションチャンネルを構築する。	IRC
[III]	他団体との連携強化		
8	PMに関係する団体との連携によるPM普及、強化活動	PMを実際に活用するユーザーの団体と連携しPMの普及を図る	企画担当理事
9	イノベーション、IOT、デジタル社会への対応策としてのPMの普及、強化活動	イノベーション、IOT、デジタル社会への対応についても関連団体連携し、実現の推進力としてのPMの実装、活用を推進する	企画担当理事
10	国内外のPM教育に関する情報交流HUB機能の強化	高等教育機関、中等教育機関で、PMの基礎を現場の教育に取り入れることができる教員や教育協力者が増え、PM教育のすそ野を拡大させる。	教育国際化委
11	REPとの関係強化	会員サービスの向上/PMI方針・施策の浸透/市場ニーズの把握/個人会員の増加	REP友の会
[IV]	PM適用分野の拡大		
12	外部表彰	PMI本部表彰制度を活用し、優れたPM実践者/組織を表彰することで、PMI日本支部とPMに対する社会的認知度を向上する	理事会
13	PM教育の必要性・有効性に関する啓発活動の強化	人材育成におけるPM教育の有効性、必要性を社会に広く認知させる。	教育国際化委
[V]	首都圏以外での活動拡大		
14	PM活動による地域における価値創出の促進	PM活動を地域社会の充実化・活性化につなげるとともに、PM有効性を発展させる。	地域サービス委
15	地域におけるPM活動のプロモーション強化と参加しやすい環境づくり	PMコミュニティやランチ活動の認知度向上および、活動体制の強化につなげる。	地域サービス委
[VI]	PMを通じた社会貢献の展開		
16	社会貢献活動の実践を通じたPM手法、資産の充実と普及展開	PMI日本支部として社会貢献活動を行うことによりPMの適用領域を拡大する。	ソーシャルPM研究会
[VII]	支部活動基盤の整備		
17	部会リーダー交流会の設定と運営	<ul style="list-style-type: none"> 部会間での連携強化 理事会や戦略委員会への要望や提言の場を提供する 	PMコミュニティ活性化委
18	戦略運営委員会の運営確立	PMI日本支部のガバナンス体制向上に向けた委員会改編に伴う体制確立	企画担当理事/戦略運営委
19	複数の部会での共同企画の開催	<ul style="list-style-type: none"> 部会間での連携強化 お互いの知見を活用することによる企画の質や効率の向上 	PMコミュニティ活性化委

Column / 組織

■PMI日本支部2017-2019中期計画の進捗確認と支部活動の更なる充実に向けて

No	施策名	目的	推進主体
[VIII]	アクティブメンバーへの支援強化		
20	リーダーシップスキル育成	各部会のアクティブメンバーの質の向上	PMコミュニティ活性化委
21	ボランティア・コミュニティの運営手法の体系化	各部会の活発な活動の実現を支援する	PMコミュニティ活性化委
22	日本支部会員に対する価値ある情報の発信	PMI本部、日本支部、部会活動などの会員限定の情報を発信することにより、会員である価値を高め、リテンション率の向上とアクティブメンバーの増加をめざす	PMコミュニティ活性化委
[IX]	サービスの向上		
23	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上①	法人ごとのPMIに求める価値の仮説設定による木目細かな施策の展開	組織拡大委
24	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上②	法人スポンサー拡大のために追加の特典、施策を検討し展開する。	組織拡大委
25	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上③	法人スポンサー企業の身近な存在としての認知度向上	組織拡大委
26	新規入会者へのガイダンス	新規入会者のリテンション率向上	組織拡大委
[X]	会員増強		
27	法人スポンサー企業の個人会員増加施策	法人スポンサーの窓口経由で個人にアプローチし、いろいろなベネフィットの違いも提示して個人会員に誘導する	組織拡大委

Column / 新任理事ご挨拶



教育国際化委員会

伊藤 衡 (いとう こう)

慶応大学大学院
システムデザインマネジメント研究科
非常勤講師



組織拡大委員会、標準推進委員会

水井 悦子 (みずい えつこ)

(前PMタレントコンピテンシー研究会
代表、前ミッション委員)
日本アイ・ビー・エム株式会社
グローバル・ビジネス・サービス
シニア・プロジェクト・マネジャー

このたび、教育国際化担当理事を拝命いたしました、伊藤衡と申します。よろしくお願いたします。

思えばPMIとの関わりは2002年、PMとして勤務していた会社での研修で香港人の講師からPMPという資格があるから受験するようにと勧められたのがきっかけでした。2003年PMP取得後すぐに、翻訳出版委員会のPMCDF翻訳プロジェクトに参加しました。そこでお会いした皆さんが素晴らしい方ばかりだったこともあり、その後多くの翻訳出版プロジェクトに参加しました。2005年からは、北大プロジェクトの立上げをきっかけに教育委員会にも参加し、ここでも多くの先輩方からたくさんのお話を学ばせていただきました。気が付けば日本支部も今年で20周年という節目を迎え、会員数も順調に伸びし4000名もの大組織になったと聞いて、正直驚くと同時に、あらためて理事としての責任の重さを感じている次第です。

私はこの10年ほどは、様々な業種業態の現場PMの方々と共にワークショップをおこなう仕事をしています。2014年からの2年間はJICAのプログラムでアフリカのボツワナ公務員大学でPMやBAの研修講師の仕事をしてきました。PMIのボランティア活動をきっかけに、いつの間にか本業でもPM教育に深く関わるようになっていたのです。なんでもそうかもしれませんが、特に教育は経験を積むほどに迷いが深まる、答えのない深い世界だと痛感しております。この難しい問いについて皆様とも是非一緒に考えていけたらと思います。

趣味は唯一走るくらいで、ここ10年ほど続けております。次回出走予定は3月の鹿児島マラソンです。

まずは、教育国際担当の井上理事、除村理事、斎藤理事（今期より組織拡大担当）に教えていただきながら、一日も早く理事としての役割を果たせるように努力したいと思いますので、皆さまご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本年より組織拡大委員会担当理事に就任いたしました水井です。

2016年より参画している標準推進委員会も継続して担当してまいります。研究会活動は、2011年のPMタレントコンピテンシー研究会立上時から、PMに求められるコンピテンシーの改善に向けた取り組みを研究しており、PMI Japan Forumや法人スポンサー連絡会において、研究成果を発表させていただいております。

PMI日本支部では2017年より新たな3カ年中期計画を基に活動をスタートしています。2016年よりミッション委員会委員として、この中期計画の作成と展開に携ってまいりました。今後は組織拡大委員会担当として、個人会員、法人スポンサー様の増強に向けての取り組みを推進してまいります。

昨今のビジネス環境やテクノロジーの進化により、多くの企業や組織が変革を進める中で、プロジェクトマネジメント人材に求められるコンピテンシーも多様化してきています。このような環境下で、法人スポンサー様が抱える課題に応じたサービスの提供を検討し、展開を推進していきたいと考えております。新しいプロジェクトマネジメントの人材像を提供できるのはPMI日本支部の強みであり、PMI本部の情報資産や、長年研究を続けている新しいコンピテンシーエリアの育成について、情報発信をしていきたいと思っております。

個人会員の皆さまには、PMI日本支部の価値あるサービスや情報の提供と共に、支部活動の「魅力」の発信を更に推進したいと考えています。多くのプロジェクト・マネジャーの皆様、PMI日本支部の部会活動やイベント等に参加いただき、人的ネットワークの構築やスキル育成に貢献できるよう努めてまいります。

理事として多くの会員様やプロジェクトマネジメントに興味のある皆様とのコミュニケーションを心より楽しみにしております。PMI本部とPMI日本支部のサービスと資産が、多

くの皆さまに届けられるように尽力してまいりますので、ご支援の程、よろしく願い申し上げます。



ミッション委員会

池田 修一 (いけだ しゅういち)

株式会社ポジティブ・ラーニング

今年から新任理事になりました池田修一です。私は2005年度に組織成熟度研究会（現組織的プロジェクトマネジメント研究会）に参加し、次年度からはポートフォリオ/プログラムマネジメント研究会に参加し、現在も活動を続けております。また、BA（ビジネスアナリシス）研究会、標準化委員会と活動の幅を拡げ、これまで研究会のメンバーと協業しながら様々な成果物を作成し、PMI日本支部のフォーラム等で発表させて頂きました。その中でも私が長く関わってきたのは、PMIの標準やガイドであるPMBOK、プログラムマネジメント標準、ポートフォリオマネジメント標準、OPM（Organizational Project Management）/OPM3を利用し、組織の戦略を実現するためのフレームワーク、方法論を研究してきました。どの組織でも戦略を実現させるための施策を展開しておりますが、それらが必ずしも実施されている個々のプロジェクトと連携しているとは限りません。またプロジェクト側では慢性的なリソース不足などの問題が発生し、組織側から十分な支援を受けていない場合があります。このためには、戦略からポートフォリオ、プログラム、プロジェクトの連携が必要ですが、うまくいっている企業や組織はそれほど多くはありません。このために、研究会では、国内外の成功事例を収集し、どのようにしたら戦略を実現できるかについて、実践に絡めた研究も行ってきました。しかし、戦略を実現するにはPMIの標準だけではなく、世の中にある様々な方法論やフレームワークとの連携が必要であるとわかってきました。よって、PMI以外の団体や機関と協業して、組織が実際に利用できる標準やしきみについて作りあげていきたいと思っております。その中でPMIの標準をどのように組織に適用するかを検討し、展開したいと考えます。

今回、ミッション委員会を担当させて頂くことになりました。現在PMI日本支部では、中期3か年計画において27個

の施策を立案しており、これらを確実に遂行することがPMI日本支部の成長につながり、また会員の皆様などのステークホルダーへの利益に貢献できるものと考えております。日本支部では、多くの委員会や研究会があり、各参加者の方々が積極的に活動をして頂いております。よって、日本支部が円滑な運営をするために、これらの活動と日本支部のミッション、目的、施策との整合性を確実に取っていきたいと考えます。また、環境の変化により様々な課題が発生してくると思いますが、これについては次期中期計画へ盛り込んでいきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いします。



組織拡大委員会

渡辺 哲也 (わたなべ てつや)

株式会社日立インフォメーションアカデミー

初めまして。この度、新任理事に任命されました渡辺哲也と申します。私は今後、「組織拡大委員会」に所属し、担当理事として支部会員の皆様や関係各位と連携をはかりながら、PMI日本支部の発展に貢献するために精一杯活動していく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は現在、(株)日立インフォメーションアカデミーに所属し人材の育成業務に携わっております。担当している分野は、プロジェクトマネジメントのみならず問題解決や意思決定、交渉学など多岐にわたり、講習会で年間のベーク名以上の方々と接しております。今は講義に多くの時間を割いておりますが、もともとはハードウェア技術者であり、電子・電気回路教育などの分野も担当しておりました。今でも気持ちの半分以上はエンジニアです。実はエンジニアは人前で話すことが苦手な人が多いと聞きます（苦笑）

日ごろ、将来PMを目指して勉強されている方や、現在PMやPLとして業務に従事される方と研修の場でいろいろなお話を伺う機会があります。その中で最近感じることは、皆さん大変にお忙しいということです。そのような状況の中でも時間をつくり研修に参加される皆様にはいつも頭が下がります。また、研修に参加された方から、随分後になってから通りすがりに「PMPになって大きなプロジェクトを任せてもらえるようになった」などお声がけをいただくこともあり、

Column / 新任理事ご挨拶

やりがいを感じる瞬間もあります。

一方で、これまで、PMIとの関わりは、年に一度夏に開催されるフォーラムの聴講や、PDU取得のためイブニングセミナーにたまに参加させていただく程度でありました。そして今回理事に就任するにあたり、私自身がPMI日本支部の

活動についてほとんどわかっていないこと知りました。従いまして、今後は理事業務とは別に支部会員の一人としてスターディーグループなど各種活動にも積極的に参加する所存です。
(趣味:硬式テニス、マラソン、ゴルフなどアウトドア派です)

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

【部会紹介シリーズ】 その9

■ 統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会

IPPM研究会 代表 泉澤 聖一

1. はじめに

2004年6月に発足し14年間活動を行ってきたEVM研究会は、2018年1月から、統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会（Integrated Project Performance Management Study Group: IPPM研究会）に改称し、アーンド・バリュー・マネジメント（EVM）、その派生手法アーンド・スケジュール（ES）及びネットワーク・スケジューリングを中核としたパフォーマンス・マネジメント手法と、そのベストプラクティス（最良実践）を調査研究する研究会として活動を発展的に一新しました。これは、昨年2017年にEVM生誕50周年を迎えて、EVMの優れた原理原則と基本手法は変わることない一方で、時代の要請として、総合的にプロジェクト・パフォーマンスを測定し、分析評価する必要性が高まっている今後の方向性を見据えた研究会の自己変革です。

以下、EVMの歴史を振り返りながら、EVM研究会の活動と実績、そしてIPPM研究会に一新した経緯を解説紹介します。

2. これまでのEVMの歴史と研究会活動の歩み

先述したように1967年に米国国防総省は、EVMの原型となる32 GuidelineのC/SCSCを制定、1968年にANSI/EIA 748の政府取得契約義務規準として正式に公開、現在に至るまでその規準自体は変わっていません。とは言え、当初は、国防総省や連邦政府などの巨額取得プログラムを対象にしていたうえ、32 Guideline自体が説明責任義務の規範的要求条項であり、その具体的解釈や運用を巡って、2000年代初期にまで長く混乱が続きました。このためPMBOK®ガイドでのEVMは2000年版で初めてわずかに紹介記載され、続く2004年版ないし2005年EVM実務標準の初版でようやくEVMの輪郭がおぼろげに記述されました。

こうした中2004年に32 GuidelineとPMBOK®ガイド記述のEVM解釈乖離解消、民間セクタでのEVM最良実践研究を目指して、EVM研究会は発足しました。2007年のEVM実務標準初版の翻訳支援、関連文献の輪講、わずかな国内実

践例などを通して研究を続け、2010～2012年にはEVM実務標準第2版翻訳支援を行ってきました。このEVM実務標準第2版公開で、ようやくPMIが推奨提示する民間セクタ向けEVM適用フレームワークが確立され現在に至っています。これによりEVMの一般的適用の輪郭が固まったあと、EVM研究会は、さらにその第2版付録Dで認知紹介されたアーンド・スケジュール（ES）の概念と分析手法、EVMとネットワーク・スケジューリングとの連携分析手法などに重点を置いた研究をも進め、現在に至っています。

また、フォーラム講演もプロジェクトマネジメントへの単純なEVM適用視点のみならず、ビジネスやコンプライアンス関連マネジメントへ活用する例、さらにEVMとES連携分析手法紹介など幅広い視点で、2005年から現在まで毎年講演を続けています。

3. これからのEVMの将来像と研究会活動の変革

EVM運用にまつわる様々な波乱万丈を経て2010年代に入り、EVM活用の主目的が、32 Guidelineの説明責任義務に縛られたパフォーマンス・レポートの報告手段から、実質的にプロジェクト成果効率を評価する測定分析のパフォーマンス・マネジメント手段へと、大きく変化します。ここ数年、国防長官室パフォーマンス評価根本原因分析局（OSD-PARCA）、政府説明責任局（GAO）、行政管理予算局（OMB）などの連邦政府機関で、EVMを主に活用するパフォーマンス・マネジメントの取り組みと、そのガイドが続々と公開されるほか、民間機関と産業界の協同作業部会（CAIWG及びNDIA-IPMD）でもEVMを適用するスケーラビリティ・ガイド、アジャイル・ガイドなどが公開されるなど、官民双方で、プロジェクトの規模や種類にかかわらず、不要不急の無駄を除去かつ費用を低減した合理的EVMを活用するパフォーマンス・マネジメントの先進的取り組みが進められています。

昨年、PMI-CPM学長Wayne Abba氏は、その機関紙Measurable News（夏季号）EVM生誕50周年記念

■部会紹介シリーズ

特集の巻頭記事「THE EVOLUTION OF EARNED VALUE MANAGEMENT / アード・バリュー・マネジメント進化論」で、EVMの紆余曲折あった過去と激変する近況を語り、EVMと関連手法を中核とする統合プログラム・パフォーマンス・マネジメント (Integrated Program Performance Management: IPPM) に進化する将来像を示して、その実践教育と資格認証の必要性を提唱しています (図1)。

一方、先に述べたESの研究では、EVMの欠陥を補う拡張手法という一般の認識とは異なり、ESの提唱者Walt Lipke氏は、所属組織のCMM® Level 4~5認証獲得に必要なマネジ

メントのために、EVMとネットワーク・スケジューリングと連携するESを、そのマネジメントの一手段として工夫創出したにすぎず、それらの連携分析による様々なパフォーマンス・マネジメント手法の創成を主目的としていたことが明らかになりました。これに注目したEVM研究会では、2010年代前後の30を超えるLipke氏関連論文を翻訳研究し、次世代の「EVM、ES及びネットワーク・スケジューリングを総合的に連携分析する統合パフォーマンス・マネジメント」の方向性を確信、その研究活動に軸足を移しました (図2)。ここ数年のフォーラムでもその研究成果を発表講演しています。

図1 IPPM-Enterprise Professional

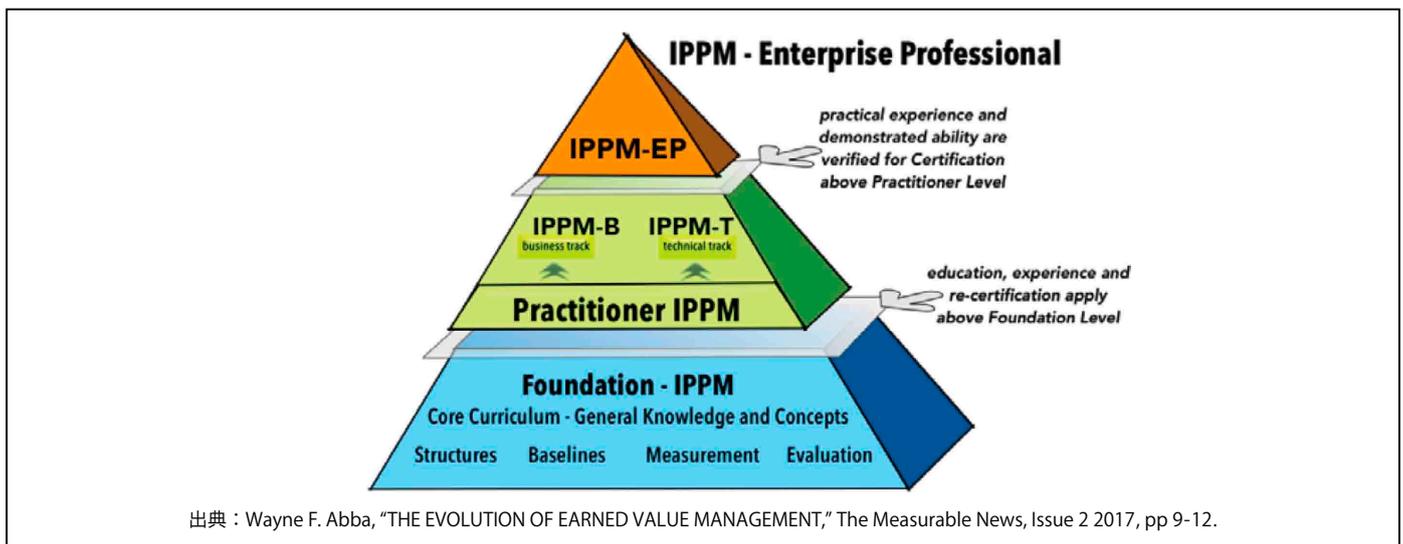
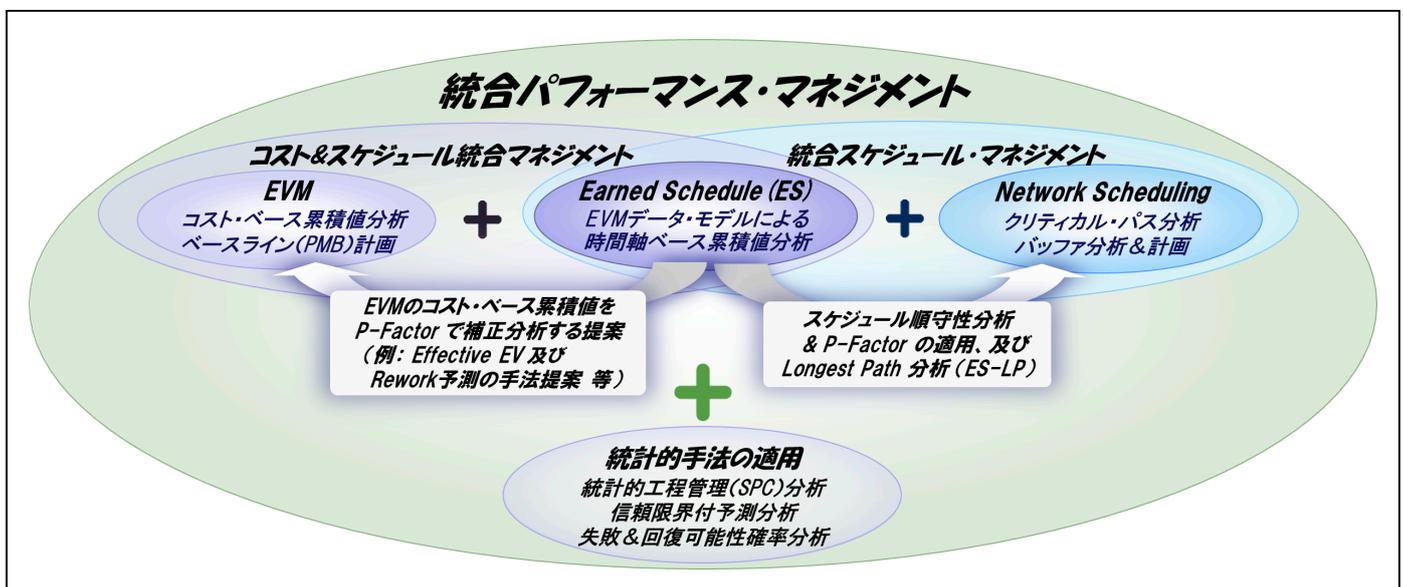


図2 IPPM研究会が描く、統合パフォーマンス・マネジメントのフレームワーク



■部会紹介シリーズ

以上に記述した、米国のトップダウン変化、EVM研究会の調査研究に現れたボトムアップ変化、という双方のEVMを取り巻く環境と方向性の変化を見極め、2018年度からEVM研究会を一新し、科学的パフォーマンス・マネジメント志向の研究活動に重点を置く「統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会 (IPPM研究会)」として再発足するに至りました。

4. IPPM研究会の新たな活動ビジョンと

Talent Triangle™への対応

IPPM研究会の変革で、何を目的とし、何をするのか、何ができるのか、それで研究会はどのような貢献をするのか？を具体的に明示すると、図3に示した研究会の活動ビジョンとその意図、そして数年前からPMIが推進しているTalent Triangle™への対応です。

5. IPPM研究会の活動内容と状況

活動ビジョンとその意図を具現化する活動プログラムを実施しています。具体的には、

- ①研究対象の論文(原文)を前月の月次定例会時に事前配布
- ②約2週間後に、論文翻訳を配布して事前に内容を把握予習(図4)

③当月の月次定例会の勉強会で、論文の詳細解説のプレゼンテーション発表、さらに論文内容によっては、エビデンス検証やシミュレーション再現検証、及び異なる独自観点による検証などの検証研究を追加実施、検証成果を発表(図4)などを毎月行っています。その中で最も興味深い有用な論文については、その研究と検証成果を毎年の日本支部フォーラムで発表講演しています。

これらは、全てPDFの電子媒体で資料配布共有し、Skypeなどの画面共有する遠隔会議で月次定例会を実施しています。これにより、支部会議室での定例会は廃止しており、全て地方からのSkype遠隔参加が可能です。また現在は、メンバーの各事情と都合を考慮しながら、基本的に毎月第4日曜日から午後6時から定期開催しています。

6. 今後の研究会活動予定

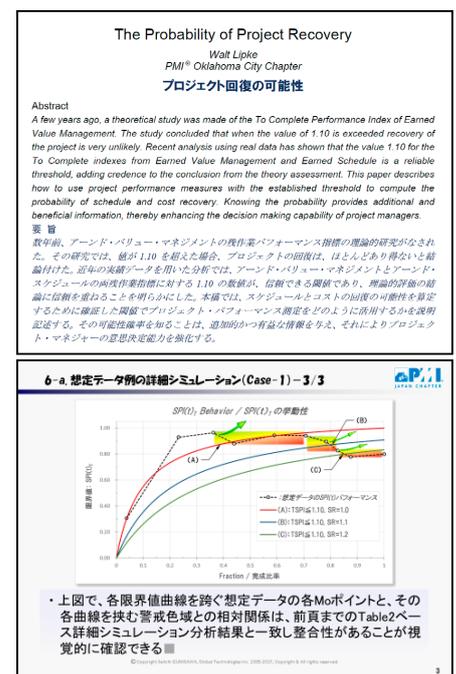
先述した、EVMを活用するパフォーマンス・マネジメントの米国情報やLipke氏論文研究などの40を超える資料の多数は、2010～2017年に公開された最新文献です。IPPM研究会では、これらの翻訳済み最新文献を体系的にまとめて再レビューし、その勉強会を最初から仕切り直す活動プログラムを企画中で、2018年後半に再開する予定です。

今からでも遅くはありません。これら最新の知見情報に触

図3 IPPM研究会の活動ビジョンとPMI Talent Triangle™の整合



図4 定例会での勉強会資料例



■部会紹介シリーズ

れて、PMBOK®ガイドや実務標準では伺い知れない知識と新たに出現したパフォーマンス・マネジメントの取り組みを習得するのに、時宜を得た良い機会です。本紹介記事で関心を

持たれた会員の体験参加または入会※、他部会からのオブザーバー参加、そして他部会との合同勉強会を歓迎します。

※体験参加・入会希望者は、下記宛までご連絡ください。

PMI日本支部の部会活動 IPPM研究会

https://www.pmi-japan.org/session/study_club/ippm.php

■部会紹介シリーズ

【部会紹介シリーズ】その10

■セミナー・プログラム

セミナー・プログラム 副代表 大島 康宏

■はじめに

「セミナー・プログラム」はPMI日本支部主催イベントのうち、主に月例セミナーとPMI Japan Festa（以下、Festaと記します）の企画・運営を行っています。活動内容と共にセミナー開催に向けた準備について紹介します。

■これまでの活動

各業界の第一線で活躍されているプロジェクト・マネジャー（以下、PMと記します）に向けて、セミナー開催を通じて、プロジェクト推進に役立つスキルアップ向上の機会を提供しています。2017年は8回の月例セミナーと、Festaを開催しました。

Festaは2017年で9回目となり、2018年には開催10回目を迎えます。その他、関西ランチと協業してのセミナー開催や、PMI日本フォーラムとのナレッジ共有など、セミナー開催に向けての豊富な経験と知識を役立てています。

■セミナー開催の概要

セミナー・プログラムでは、ひとつのセミナー開催をプロジェクトとして位置付け、セミナー・プログラムのメンバーからPMを任命し、他のメンバーと協力して推進していきます。

担当PMは、現場のPMの方々が興味を持つ旬のテーマを選定し、その分野でご活躍されている方に講演を依頼しています。

講演内容は、PMI日本支部の活動の内容を理解していた上で、講師と担当PMとで話し合いながら決めていきます。講演にあたり、最低講演料のような条件（当方の予算を遥かにオーバーするもの）を決めている講師の方もいらっしゃいますが、担当PMが事前に自ら講演を聴講し講師の考えを理解し、交渉時に講演に向けた熱い思いを伝えることで、そのような条件を取り払い、交渉を成立させたこともあります。Festaの場合は、統括PMが各役割担当をまとめ、全員参加のプロジェクトとなります。

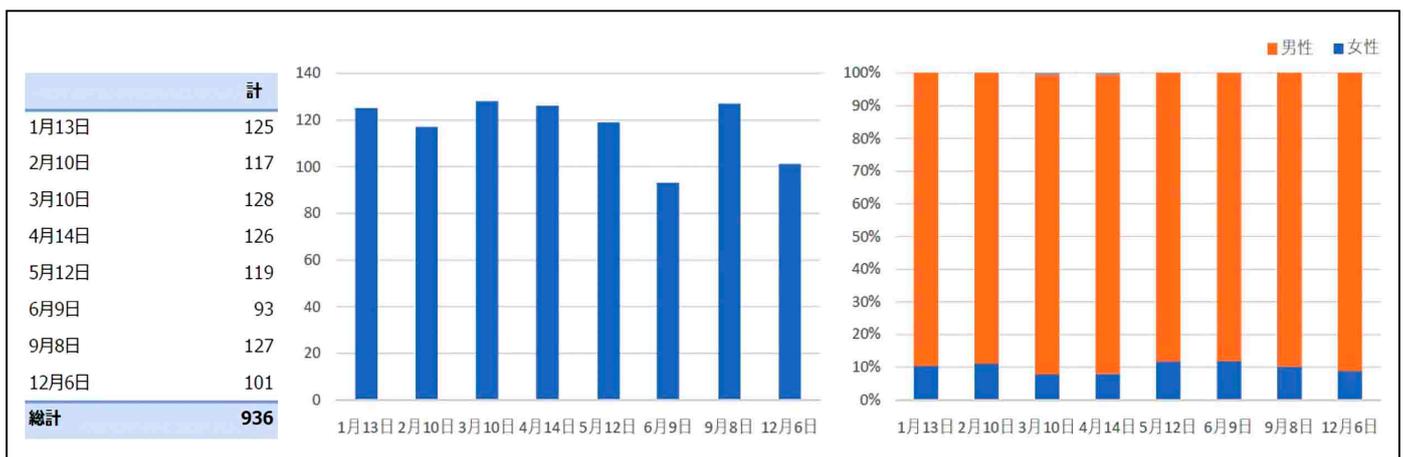
■セミナー開催までの準備（PMI Japan Festaの例）

FestaはPMI日本支部理事、事務局と協調して、秋の二日間にわたり8～9講演を開催しています。準備は前年のFesta終結直後から始まり、一年がかりのプロジェクトです。

(1) 立ち上げ

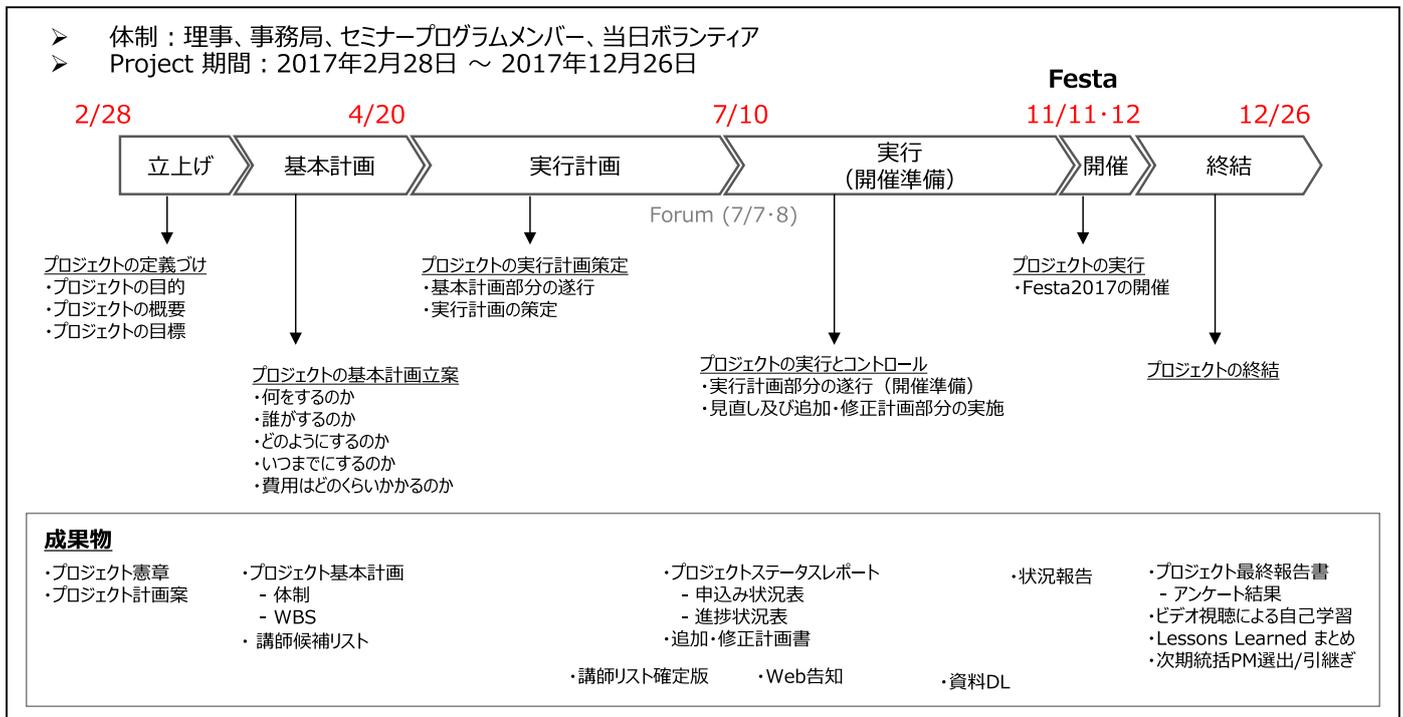
Festa統括PMを中心に、プロジェクトの定義づけを行います。昨年までの成果を引継ぎ、今年のFestaの目標を定めます。

図1 2017年度 月例セミナー集客数



■部会紹介シリーズ

図2 PMI Japan Festa 2017スケジュール



(2) 基本計画

Festaのテーマを決め、プロジェクトの基本計画を立案します。テーマに沿った講師候補をリストアップします。

(3) 実行計画

開催場所を決定し、開催までのタスクを明らかにします。各タスクの担当PMを決定します。講師候補リストに従い、講師に登壇依頼・交渉を行います。

(4) 実行

各担当PMが開催準備を進めます。

(5) 開催

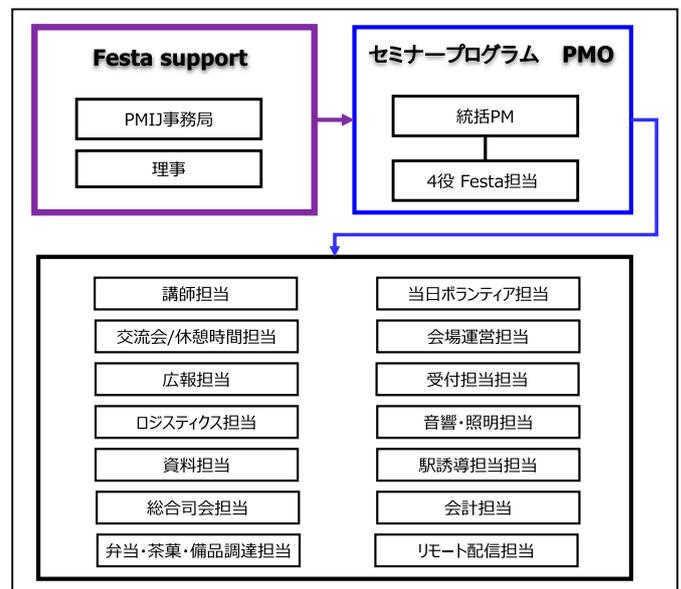
理事、事務局、セミナー・プログラムメンバーおよび、当日ボランティアにより、Festaを開催します。

(6) 終結

受講者のアンケート結果や各担当PMの所感からFestaを振り返り、ナレッジとしてまとめます。

Festa開催担当としての一つの醍醐味は、講師の選定と交渉にあります。FestaではPMを実施していくためのテクニカルなスキル向上の話だけでなく、講演者の体験や経験に基づく生の声を届けることを重視しています。第一線の場で結果を出してきた人の言葉だけに、受講者の心の奥に届き、新しい気づきが生まれると考えています。

図3 Festa開催時の組織図：開催準備フェーズ



日程が合わないなどの理由で交渉初期に辞退されることもあるため、全ての講師決定までは3～4ヶ月ほどを要します。講師担当は、講師にアポイントを取り、打ち合わせの場で講演内容、講演に向けての準備内容のすり合わせを行います。講演の予告としてインタビュー動画も制作しており、インタビューの撮影許可をいただいた場合は、同時に撮影を行いま

■部会紹介シリーズ



PMI Japan Festa 2017



月例セミナー

す。この打ち合わせでは講師の素顔に触れられ、当日の講演では披露されないウラ話を聴くチャンスもあります。

月例セミナーの場合は、開催場所を年初に決めているため、講師との調整と講演当日対応がメイン・タスクとなります。

■今後の活動

2017年のFestaでは同時配信システムにより、世界中のどこからでも講演を聴講できる仕組みを取り入れました。今後さらなる活用を予定していますが、コストや、現地会場みのクローズドの場だからこそ出来る「ここだけの話」を聴ける楽しみが減ってしまうという課題があります。この点は、より良い解決方法を探求して行きます。

講演後には講師を含めた交流会を行っていますが、講演参加者同士のネットワークを広げる場としても活用できるように取り組んでいます。さらに、関西・中部ランチと協業して、東京以外においても、受講者の皆さまに良質な講演を発信して行きます。

■セミナー・プログラム活動へのススメ

セミナー・プログラムに参加することで、年間10人以上の講師のお話を拝聴する機会がありました。担当PMが推薦した講師だけあって、講演からは色々な面からの気づきを得ることができ、現場のプロジェクトで困難に感じている課題・問題解決のヒントも散りばめられています。同時に、定期的

に参加することで、仕事を進めて行くための良いアクセントとなっています。

また、常日頃から講師をお願いしたい人へのアンテナを張るようになり、テレビで見たり、著書を読んだりしては、「いつか講演をお願いしたいな」と考えるようになりました。そして、そのような方々とお会いする機会を得られることが、何よりのセミナー・プログラムに参画し続けるモチベーションとなっています。

ご興味を持たれた方は是非下記からコンタクトをお願いします。

<https://www.pmi-japan.org/session/program/seminar.php>



PMI Japan Festa 2017 スタッフ

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中】

■ PMI日本支部関連セミナー

● アジャイルプロジェクトマネジメント基礎

- ・日時：4月5日(木) 9:30～18:00
- ・場所：PMI日本支部セミナールーム
- ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● 4月度月例セミナー

抵抗勢力との向き合い方

～働き方改革、業務改革を阻む最大の壁を乗り越えろ～

- ・日時：2018年4月13日(金) 19:00～21:00
- ・場所：アクセス渋谷フォーラム
- ・2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● デザイン思考基礎

～優れた顧客経験(CX)を提供する～

- ・日時：5月24日(木) 9:30～18:00
- ・場所：PMI日本支部セミナールーム
- ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● 【追加開催】ファシリテーション型リーダーシップ基礎

～チームのパフォーマンスを高め、プロジェクトを成功に導く極意～

- ・日時：6月8日(金) 9:30～18:00
- ・場所：PMI日本支部セミナールーム
- ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● アジャイル実践

～知識から実践へ～

- ・日時：4月6日(金) 9:30～18:00
- ・場所：PMI日本支部セミナールーム
- ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● デザイン思考実践(2日間)

～顧客経験(CX)からの革新商品&サービス開発～

- ・日時：4月25日(水)・26日(木) 9:30～18:00
- ・場所：PMI日本支部セミナールーム
- ・14PDU、ITC実践力ポイント14時間分

● アジャイルプロジェクトマネジメント基礎

- ・日時：5月31日(木) 9:30～18:00
- ・場所：PMI日本支部セミナールーム
- ・7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● 日本支部創立20周年記念イベント

- ・日時：5月20日(日) 13:00～17:30
- ・場所：学術総合センター 一橋講堂
- ・3PDU(予定)

【月例セミナー開催場所の変更について】

2018年度の月例セミナーは、下記の日程で渋谷にて行います。

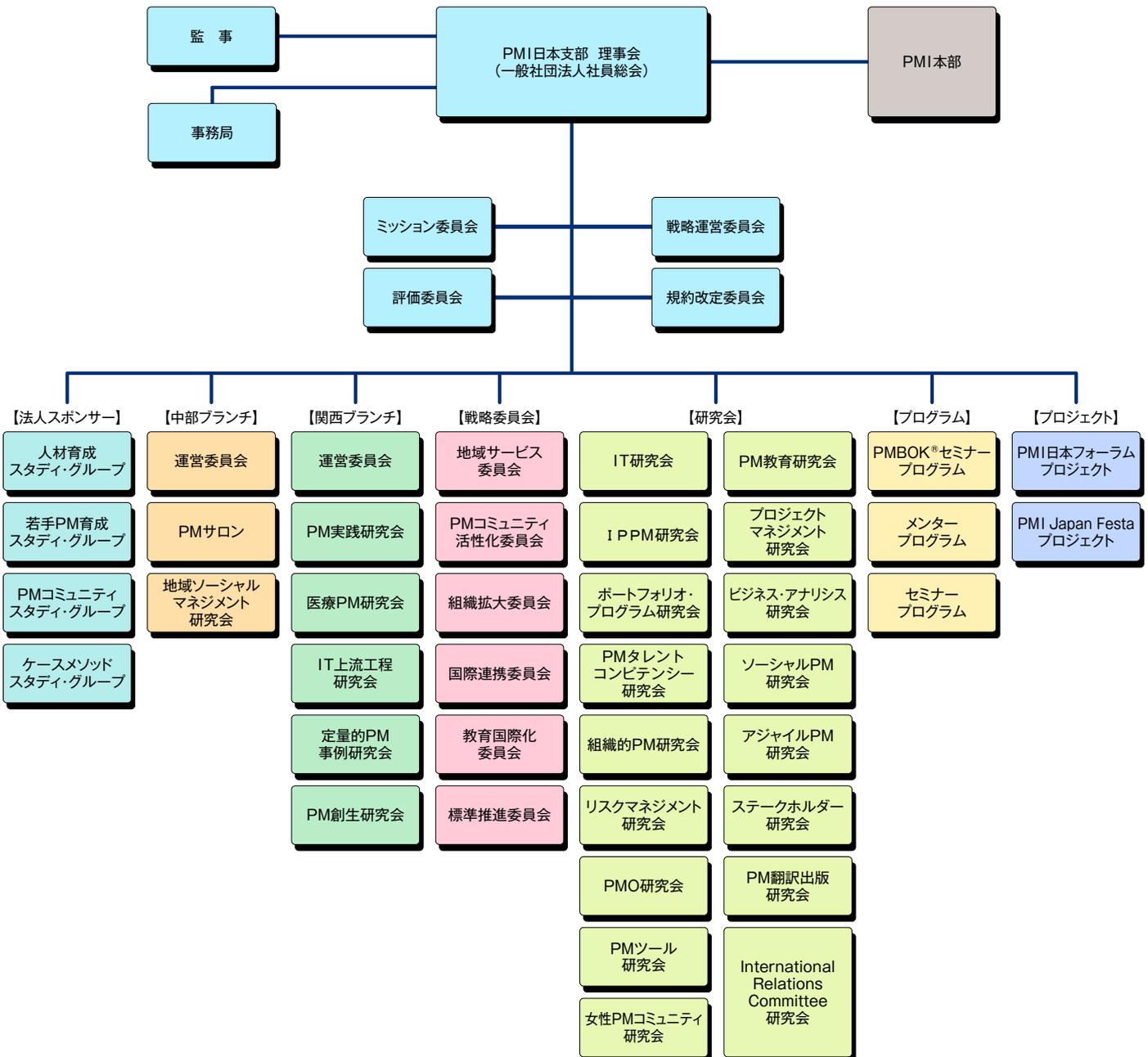
【日程(予定)】	① 2018年1月19日(金)	④ 2018年4月13日(金)	⑦ 2018年 9月14日(金)
	② 2018年2月16日(金)	⑤ 2018年5月11日(金)	⑧ 2018年12月13日(木)
	③ 2018年3月14日(水)	⑥ 2018年6月 6日(水)	
【場 所】	アクセス渋谷フォーラム 東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー24階 東京メトロ銀座線、半蔵門線、副都心線 「渋谷」駅 15番出口から徒歩3分		

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2018年3月現在)



■理事一覧 (2018年3月現在)

会長 ^(※)	: 奥澤 薫 (KOLABO)
副会長 (地域サービス委員会 [※])	: 浦田有佳里 (株式会社HS情報システムズ)
副会長 ^(※)	: 片江有利 (株式会社システムコストマネジメント)
副会長 ^(※)	: 端山 毅 (株式会社NTTデータ)

※規約改定・評価・ミッション・戦略運営の4委員会を兼務

(以下、五十音順)

理事 (組織拡大委員会)	: 麻生重樹 (日本電気株式会社)
理事 (ミッション委員会)	: 池田修一 (株式会社ポジティブ・ラーニング)
理事 (教育国際化委員会)	: 伊藤 衡 (慶応大学大学院)
理事 (教育国際化委員会)	: 井上雅裕 (芝浦工業大学)
理事 (ミッション委員会)	: 岩岡泰夫 (株式会社国際開発センター)
理事 (地域サービス委員会)	: 木南浩司 (株式会社マネジメントソリューションズ)
理事 (組織拡大委員会)	: 斉藤 学 (スカイライト コンサルティング株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 鈴木安而 (PMアソシエイツ株式会社)
理事 (国際連携委員会)	: 武上弥尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 中嶋秀隆 (プラネット株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会)	: 福本伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (財政担当)	: 三嶋良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (組織拡大委員会)	: 水井悦子 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会/戦略運営委員会)	: 森田公至 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (教育国際化委員会)	: 除村健俊 (株式会社リコー)
理事 (組織拡大委員会)	: 渡辺哲也 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
監事	: 神庭弘年 (神庭PM研究所)
監事	: 平石謙治 (ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
監事	: 渡辺善子 (株式会社日本政策金融公庫)
顧問 (地域サービス委員会)	: 木下雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
顧問 (国際連携委員会)	: 杉村宗泰 (日本マイクロソフト株式会社)
顧問 (コミュニティ活性化委員会)	: 高橋正憲 (PMプロ有限会社)

■最新の会員・資格者情報 (2018年1月31日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP [®]		PMI-SP [®]	PMI-RMP [®]	PgMP [®]	PMI-ACP [®]	PfMP [®]	PMI-PBA [®]	CAPM [®]
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
514,726人	4,045人	833,025人	36,467人	4人	7人	5人	35人	3人	4人	120人

■行政スポンサー (2018年3月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (105社、順不同、2018年3月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社ジェーエムエーシステムズ
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- 日本マイクロソフト株式会社
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティ・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフトエンジニアリング株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス

- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウェア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & ADシステムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社HS情報システムズ
- 株式会社アジャイルウェア
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 関電システムソリューションズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (40教育機関、登録順、2018年3月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 2018年1月16日、PMI日本支部はおかげさまで創立20周年の記念日を迎えました。PMI日本支部会長の奥澤薫からご挨拶を差し上げました。
- 2017年から開始した第4期中期計画について、その進捗状況をPMI日本支部副会長の端山毅よりご紹介しました。
- PMI日本支部では2017年末に理事選挙が行われ、2018年1月に新体制が発足しました。今号では新任理事5名のうち4名(伊藤衡氏、水井悦子氏、池田修一氏、渡辺哲也氏)からのご挨拶を掲載しました。
- 支部の各部会活動紹介シリーズは2年目に入りました。今後では、『統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会(旧EVM研究会)』、『セミナー・プログラム』の2部会を掲載しました。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

PMI日本支部では、創立20周年を記念して、将来への飛翔をイメージした記念ロゴを設定し、これから記念イベント(5月20日)や記念誌発刊などを企画しています。7月14日・15日に開催する「PMI日本フォーラム」、秋に開催する「PMI Japan Festa」を含め、会員ボランティアの皆さまと共に20周年行事を盛り上げていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

ニューズレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニューズレター Vol.74 2018年3月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
 〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
 TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833
 E-mail：info@pmi-japan.org
 ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)